

<実践研究>

子ども支援の沖縄キャラバンの活動実態と役割
—COVID-19 前と COVID-19 禍中の活動の比較からみえてきたこと—

照屋 真紀 小石 浩一 前橋 明

**The actual conditions and roles of the Okinawa Children's Support Caravan:
Insights from comparing activities before and during the COVID-19 pandemic**

Maki Teruya, Kouichi Koishi and Akira Maehashi

レジャー・レクリエーション研究 第105号

令和7年3月

日本レジャー・レクリエーション学会

<実践研究>

子ども支援の沖縄キャラバンの活動実態と役割
—COVID-19 前と COVID-19 禍中の活動の比較からみえてきたこと—

照屋 真紀^{1,2} 小石 浩一¹ 前橋 明³

**The actual conditions and roles of the Okinawa Children's Support Caravan:
Insights from comparing activities before and during the COVID-19 pandemic**

Maki Teruya^{1,2}, Kouichi Koishi¹ and Akira Maehashi³

Abstract

Since 2009, the Okinawa Caravan has collaborated with the Okinawa Prefectural Board of Education to support children's health initiatives in Okinawa every year. In this study, a comparative analysis was conducted between activities before and during the COVID-19 pandemic, yielding the following results:

- (1) The activities of the Okinawa Caravan were implemented in line with addressing the issues faced by children in Okinawa. Before the pandemic, activities included in-person events such as lectures and parenting consultations aimed at raising parental awareness, as well as physical activities and interactive exercises to increase children's physical activity. During the pandemic, online and hybrid study sessions were conducted. This online format has proven to be a valuable training style that can continue in the future.
- (2) In response to the challenge of training leaders in 2021, the Caravan participated in leader training workshops and seminars as lecturers, deepening their knowledge and striving to improve their instructional skills. As a result, even when activities were divided into multiple sessions, the quality of leadership was maintained, allowing for the execution of high-quality programs.
- (3) After the pandemic, there was an increased demand for parent-child interactive exercises. It was confirmed that practicing these exercises among family members within the same household not only took infection prevention into consideration but also proved to be highly effective in promoting physical activity.

In conclusion, this study suggests that even during an infectious disease outbreak, it is necessary for adults to continuously engage in efforts to maintain children's physical activity and health.

key words: Okinawa prefecture, Children's support activities, the COVID-19, young children, exercise play

1 早稲田大学大学院 Graduate School of Human Sciences, Waseda University
2 沖縄女子短期大学 Okinawa Women's Junior College
3 早稲田大学人間科学学術院 Faculty of Human Sciences, Waseda University

はじめに

沖縄県の子ども支援 2018 年度沖縄キャラバン報告¹⁾によると、前橋は 2009 年より沖縄県教育委員会と連携して、キャラバン隊を企画・編成し、沖縄県の各地域を回っての「子どもの健康づくり支援の理論普及と問題改善のための実践普及²⁾」に力を入れてきた。

2010 年度に行われた沖縄県の幼児、小・中学生計 12,024 人を対象とした生活習慣調査³⁾では、幼児期の「就寝時刻の遅さと睡眠時間の長さ」が深刻である実態を明らかにした。また、石垣島では、2005 年の夜型生活の最大誘因は「夕食開始時刻の遅れ⁴⁾」であったが、2010 年には「テレビ・ビデオ・テレビゲームの長時間使用」へと変化したことを報告した。その後も、子どもたちの就寝時刻や夕食開始時刻の遅れ、睡眠時間の減少など、生活習慣とそのリズムの乱れを見だし、問題改善の必要性を呼びかけ、黒島ら⁵⁾、佐野⁶⁾、照屋ら⁷⁾によって、幼児の生活習慣とそのリズムづくりに関する研究が進められた。そして、沖縄県の子どもたちの生活習慣を改善するためには、保護者に対する講演を行うとともに、日中に子どもたちが運動をする環境づくりや外あそびの実践が極めて重要であることが提唱され、2019 年度まで、講演会や親子ふれあい体操、リズム体操や異年齢（中学生と幼児、高学年と低学年・幼児）とのふれあい体操、ベビーマッサージ等の実践活動を展開した。

ところが、COVID-19（新型コロナウイルス）の流行により、2020 年 3 月 28 日に新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針⁸⁾において、「三つの密」を避けること、さらにクラスターの発症を封じ込めること、また、外出自粛の要請等の接触機会の低減を組み合わせることを国の対策本部が決定した。そのため、園や学校、スポーツクラブにおいて運動やスポーツの自粛、公園でのあそびの規制がみられ、子どもたちのか

らだを動かす機会が制限された。しかし、新型コロナ流行の中でも、感染防止を心がけ、オンラインを駆使し、身体活動を休止することなく、運動内容を工夫し、2020 年度～2022 年度もキャラバン活動を続けてきた。これまでに新型コロナウイルス感染症の対策を重視しながら行う子ども支援・子育て支援の活動内容や活動実態についての報告は、未だなされていない。

そこで、本研究では、COVID-19 前の 2017 年度～2019 年度と、COVID-19 禍中の 2020 年度～2022 年度の 2 つの時期のキャラバン活動に分けて、両群の活動内容や実践回数にどのような違いがあったのか、子どもたちとの関わり方を比較することとした。COVID-19 前と禍中の活動内容の特徴を見いだすことで、今後の沖縄キャラバン活動の在り方や幼児の健康づくりに関して寄与できる新たな知見を得たいと考えた。

方 法

2009 年度以降、毎年 12 月に沖縄県教育庁生涯学習振興課の沖縄キャラバン実行委員会により、タイムスケジュールが作成され、12 月中旬から下旬にかけて 10 日間前後、沖縄本島や石垣島などで活動してきた。キャラバン隊は、早稲田大学人間科学学術院の前橋 明教授が代表であり、全国から開催趣旨に賛同する子ども支援や子育て支援に関心のあるスタッフ 8 名（2020 年度）～29 名（2022 年度）がボランティアで集まり子どもの健康福祉に関する理論と実践を伝えてきた（表 1）。

キャラバン隊指導スタッフは、医学、人間科学、教育学、体育学、保育学、幼児教育、栄養学、子どもの健康福祉学、健康教育、幼児体育、助産、看護など、そして、国際幼児体育学会専門指導員、国際幼児健康デザインスペシャリスト指導員、外あそび推進スペシャリスト指導員などの専門家が参加した。また、中国や台湾の教員や留学生、地元の短期大学教員と学生（13 名）らが参加していた。

表 1 キャラバン活動隊の人数

コロナ前			コロナ禍中		
2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
12名	17名	13名	8名	14名	29名

本報告では、COVID-19 前の 2017 年度～2019 年度の 92 件と、COVID-19 禍中の 2020 年度～2022 年度の 73 件の活動内容、実践回数を比較し、特徴を見いだすこととした。

COVID-19 禍中の感染対策は、飛沫と接触感染対策を中心に講じて臨んだ。とくに、3 密（密集、密接、密閉）対策と活動前後の手洗い、消毒、うがいを中心に心がけた。ミーティング時は、間隔を開けて着席し、感染防止を実践した。また、宿舎からの出発時と到着時、施設への入室や退室時には、健康管理チェックと手の消毒を徹底した。

結 果

1. 年度ごとの主な活動内容

年度ごとの活動内容と開始場所については、表 2 に示した。2022 年度には、キャラバン活動開始以降初めて、宮古島市での活動が開催された。

2. 活動内容と回数

講演は、COVID-19 前 15 件（16.3%）、COVID-19 禍になってからは 11 件（15.1%）で、ふれあい体操は COVID-19 前 19 件（20.7%）、COVID-19 禍になってからは 14 件（19.2%）で、親子ふれあい体操は COVID-19 前 8 件（8.7%）、COVID-19 禍になってからは 16 件（21.9%）で、リズム体操は COVID-19 前 10 件（10.9%）、COVID-19 禍になってからは 1 件（1.4%）で、運動あそびは COVID-19 前 19 件（20.7%）COVID-19 禍になってからは 15 件（20.5%）、情報交換会は COVID-19 前 4 件（4.3%）COVID-19 禍になってからは中止で、外あそび指導は COVID-19 前が皆無、COVID-19 禍になってからは 3 件（4.1%）、オンライン講義は COVID-19 前皆無、COVID-19 禍になってからは 5 件（6.8%）で、ハイブリット勉強会は COVID-19 前は皆無、COVID-19 禍になってからは 1 件（1.4%）で実施した（図 1）。

活動内容は、COVID-19 前は講演、同施設で行う異年齢のふれあい体操と他施設との交流も含めたふれあい体操、運動あそびが順に多く、続いてリズム体操であった。一方、COVID-19 以降は、親子ふれあい体操が最も多く、次にふれあい体操で、続いて運動あそびとなっていた。

3. 年度の主な特徴と所感

COVID-19 前の① 2017 年度は、沖縄県の児童・

生徒の学力問題と生活習慣づくりとの関係を確認したため、幼児期の生活リズム改善には運動あそびの実践が極めて有効だと考え、幼児に対する運動あそびを重視した。② 2018 年度は、講演では、幼児の体力・運動能力について述べ、沖縄本島と石垣島の子どもたちに対し、体力・運動能力が向上する運動あそびの実践に力を入れた。③ 2019 年度は、子どもに対する接し方や運動あそびに悩む母親に子育て相談や運動指導を、幼児や低学年に対しては異年齢で関わる運動あそびや伝承あそびの紹介をした。

COVID-19 禍中の④ 2020 年度は、石垣島の活動は行わず、初めてオンライン講義で、那覇から Zoom を通して講演を実施した（図 2）。⑤ 2021 年度は、ハイブリット講演を行い、参加型と Zoom 視聴で、講義と実技を紹介した。前年の 2020 年度より、活動依頼が増えたこともあり、指導員の養成が課題となった。2020 年度、2021 年度のふれあい体操は、同クラス内の子どもたちのふれあい体操とし、他園・他施設との合同、異年齢児との交流の実施はなかった。また、親子ふれあい体操においても、家庭内の親子とのふれあいとし、他家族との接触をさけ、実施中も家族間の距離を空けながら実施した。⑥ 2022 年度は、初めて宮古島でのキャラバン開催と、沖縄県内の短期大学から学生ボランティアの受入れを行った。

考 察

キャラバン隊の目標は、生活リズム向上戦略「食べて・動いて・良く寝よう！」⁹⁾ 運動の実践と健康づくり理論の普及であり、沖縄本島や石垣島、宮古島で子どもたちに対する運動あそびの実践と、保護者に対する理論と運動あそびの紹介、先生方に健康づくり理論と運動実践の積極的な展開を図ることで、子どもたちの生活習慣とそのリズムづくり改善を目指した。沖縄県の現状を知るために照屋ら¹⁰⁾の 2013 年の調査をみると、22 時以降に就寝する幼児の割合は、中頭・那覇地区に多く、遅寝の傾向にあることが指摘されていた。また、保護者のわが子の理想とする幼児の就寝時刻が「21 時～21 時半前」が最も多く、理想の睡眠時間は「8 時間～9 時間未満」「9 時間～10 時間未満」の多いことを確認し、幼児期の子どもにとつ

表 2-1 活動日程と内容 (COVID-19 前)

開催年度	開催日	時間	対象	活動内容	市町村
2017年度	21日(木)	午前	保育者	講習会・理論(健康教育)	(那覇市)
		午後	保育者 幼児、保育士	講習会・実技指導(健康教育) リズム体操	(那覇市) 豊見城市
	22日(金)	午前	教育関係者 幼児、保護者、保育士 保護者	講習会 親子ふれあい体操	名護市 与那原町
		午後	児童	講習会 リズム体操	八重瀬町 糸満市
		夜	保護者、保育士	講習会	那覇市
	23日(土)	午前	保育者、体育指導員、学生	講習会(幼児体育指導員)	(与那原町)
		午後	保育者、体育指導員、学生	講習会(幼児体育指導員)	(与那原町)
	24日(日)	午前	高校生、教諭	講習会	那覇市
		午後	幼児、保護者 保育者、保育士	親子ふれあい体操 講習会	那覇市 那覇市
		午後	保護者、保育士	講習会	南城市
	25日(月)	午前	乳幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	ふれあい体操 ふれあい体操 ふれあい体操	八重瀬町 糸満市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保護者、保育士 保護者、保育関係者	親子ふれあい体操 講習会 講習会	石垣市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 乳児、保護者、保育士	リズム体操 ベビーマッサージ	糸満市 南風原町
	26日(火)	午前	乳児、保護者、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	ふれあい体操 ふれあい体操 ふれあい体操	糸満市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 保護者、保育関係者 保育者、保育士	親子ふれあい体操 講習会 講習会	石垣市 石垣市 糸満市
		午後	乳児、保護者、保育士 幼児、保育士	リズム体操 ふれあい体操	糸満市 糸満市
	27日(水)	午前	乳児、保護者、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	ふれあい体操 ふれあい体操 ふれあい体操	糸満市 糸満市 糸満市
		午後	児童、保育士 保育関係者	運動あそび 講習会・理論(健康教育)	南城市 (那覇市)
2018年度	20日(木)	午前	保育関係者 児童(5年生)、幼児、教諭 児童(6年生、1年生)、教諭	講習会 ふれあい体操 リズム体操	(那覇市) 糸満市
		午後	保護者、保育士 保護者、教育関係者	講習会 講習会・実技指導(健康教育)	(那覇市) うるま市
		夜	保護者、教育関係者	講習会	浦添市
	21日(金)	午前	幼児、保育士 幼児、保護者、保育士	運動あそび 親子ふれあい体操	浦添市 糸満市
		午後	保育関係者 児童(5年生)、幼児、教諭 幼児、保育士	講習会・実技指導(健康教育) 親子ふれあい体操 リズム体操	(那覇市) 糸満市 糸満市
		夜	保育関係者	講習会・理論(健康教育)	(那覇市)
	22日(土)	午前	保育者、体育指導員、学生 保護者、保育関係者	講習会(幼児体育指導員) 講習会	(与那原町) 名護市
		午後	保育者、体育指導員、学生	講習会(幼児体育指導員)	(与那原町)
	23日(日)	午前	親子、保育関係者	親子ふれあい体操	石垣市
		午後	教職員、家庭教育支援者	講習会	石垣市
		夜	石垣キャラバン実行委員	情報交換会	石垣市
	24日(月)	午前	幼児、保育士 幼児、保育士、子育て支援者 幼児、保育士	運動あそび 運動あそび 運動あそび	石垣市 石垣市 宜野湾市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 運動あそび 運動あそび	浦添市 八重瀬町 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 運動あそび 運動あそび	石垣市 那覇市 那覇市
	25日(火)	午前	幼児、保育士 幼児、中学生、保育士 幼児、保育士	運動あそび 親子ふれあい体操 運動あそび	浦添市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 運動あそび 運動あそび	那覇市 那覇市 那覇市
		午後	乳児、保育士 幼児、幼稚園教諭 幼児、幼稚園教諭	リズム体操 ベビーマッサージ 運動あそび	南風原町 南風原町 宜野湾市
	26日(水)	午前	幼稚園教諭、教育関係者 幼児、保護者、保育士 幼児、保護者、保育士	講習会 リズム体操 情報交換会	沖繩市 糸満市 那覇市
		午後	夜 沖縄キャラバン実行委員	情報交換会	那覇市
		夜	幼児、保護者、保育士 乳児、保育士	親子ふれあい体操 ベビーマッサージ	南風原町
2019年度	21日(土)	午前	保育者、体育指導員、学生	講習会(幼児体育指導員)	(与那原町)
		午後	乳幼児、保護者、保健師	親子ふれあい体操 子育て相談会	沖繩市
	22日(日)	午前	保育者、体育指導員、学生 幼児、保護者、保育士	講習会(幼児体育指導員) 親子ふれあい体操	(与那原町) 糸満市
		午後	保育者、体育指導員、学生	講習会(幼児体育指導員)	(与那原町)
	23日(月)	午前	幼児、児童、教諭(中、幼) 幼児、児童、教諭(小、幼) 幼児、保育士	ふれあい体操 ふれあい体操 運動あそび	糸満市 うるま市 那覇市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 運動あそび	那覇市 南城市
		夜	保護者、小・中教諭	講習会	うるま市
	24日(火)	午前	保護者、保育関係者 児童、教諭 幼児、保育士	講習会 ふれあい体操 運動あそび	(那覇市) 糸満市 那覇市
		午後	高校生、教諭	講習会	沖繩市
		夜	沖縄キャラバン実行委員	情報交換会	那覇市
	25日(水)	午前	乳児、保育士 幼児、保育士 保護者、保育関係者	ベビーマッサージ リズム体操 講習会	南風原町 糸満市 (那覇市)
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	ふれあい体操 運動あそび ふれあい体操	那覇市 浦添市 名護市
		午後	幼児、保育士 幼児、保護者、保育士	リズム体操 ふれあい体操	糸満市 糸満市
	26日(木)	午前	幼児、保育士 幼児、保育士 中学生、幼児、保育士、中学校教諭	運動あそび ふれあい体操 ふれあい体操	石垣市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 運動あそび	名護市 石垣市
		夜	石垣キャラバン実行委員	情報交換会	石垣市
	27日(金)	午前	幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび リズム体操	石垣市 那覇市

表 2-2 活動日程と内容 (COVID-19 禍中)

開催年度	開催日	時間	対象	活動内容	市町村
2020年度	19日(土)	夜	保護者、保育関係者	オンライン講演	石垣市
	20日(日)	午前	幼児、保護者、保育士	親子ふれあい体操	糸満市
		午後	幼児、保護者、保育士	運動あそび	那覇市
	21日(月)	午前	幼児、保育士 幼児、幼稚園教諭	運動あそび 運動あそび	浦添市 那覇市
		午後	幼児、保護者、保育士	親子ふれあい体操	南城市
	22日(火)	午前	保育関係者 幼児、保育士	オンライン講演 運動あそび	(那覇市) 名護市
		午後	保育関係者	オンライン講演	(那覇市)
	23日(水)	午前	保育関係者 幼児、保育士	オンライン講演 運動あそび	(那覇市) 宜野座村
		午後	保育関係者	オンライン講演	(那覇市)
2021年度	24日(木)	午前	児童、教諭	リズム体操	糸満市
		午後	幼児、保育士 保護者、教育関係者	運動あそび 講演	沖繩市 南城市
	20日(月)	午前	幼児、保育士 乳児、保育士 幼児、保育士	外あそび指導 ベビーマッサージ ふれあい体操	石垣市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	ふれあい体操 ふれあい体操 ふれあい体操	石垣市 石垣市 石垣市
		午前	幼児、保育士 乳児、保育士	ふれあい体操 ベビーマッサージ	石垣市 石垣市
	21日(火)	午前	乳児、保護者、幼稚園教諭 幼児、保育士 幼児、保育士	親子ふれあい体操 ふれあい体操 運動あそび	石垣市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 足育勉強会 ふれあい体操	石垣市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士	外あそび指導 ベビーマッサージ	石垣市 石垣市
	22日(水)	午前	乳児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	ベビーマッサージ ふれあい体操 外あそび指導	石垣市 石垣市 石垣市
		午後	幼児、保育士 幼児、保育士 幼児、保育士	運動あそび 足育勉強会 ハイブリット方式勉強会	石垣市 石垣市 石垣市
		夜	保育関係者	ハイブリット方式勉強会	石垣市
	23日(木)	午前	幼児、保育士 保育関係者	ふれあい体操 実技指導	南風原町 那覇市
		午後	児童、教諭 保護者、幼稚園教諭	ふれあい体操 講演	糸満市 那覇市
	24日(金)	午前	保護者、幼稚園教諭 幼児、保育士 幼児、保育士	講演 ふれあい体操 運動あそび	那覇市 那覇市 那覇市
		午後	乳児、保育士 親子、子育て支援者	運動あそび 親子ふれあい体操	那覇市 南風原町
	25日(土)	午後	特別支援施設職員	実技指導	那覇市
	26日(日)	午前	幼児、保護者、保育士	親子ふれあい体操	糸満市
2022年度	19日(月)	夜	保育関係者	講演	宮古島市
	20日(火)	午前	幼児、保護者、保育士 幼児、保護者、保育士	運動あそび 講演	宮古島市 宮古島市
		午後	幼児、保護者、保育士 幼児、保護者、保育士	運動あそび 親子ふれあい体操	宮古島市 宮古島市
	21日(水)	午前	幼児、保護者、保育士 保護者、保育士	親子ふれあい体操 講演	宮古島市 宮古島市
		午後	幼児、保護者、保育士 保護者、保育士	運動あそび 親子ふれあい体操	宮古島市 宮古島市
	22日(木)	午前	保護者、保育士 保護者、保育士	講演 親子ふれあい体操	宮古島市 宮古島市
		午後	保護者、保育士 保護者、保育士	運動あそび 講演	宮古島市 石垣市
	23日(金)	夜	保護者、保育者 幼児、保育士	講演 ふれあい体操	石垣市 石垣市
		午後	保育関係者	実技指導	石垣市
	24日(土)	午前	保護者、保育者 石垣市の親子 幼児、保育士	講演 親子ふれあい体操 親子ふれあい体操	石垣市 石垣市 石垣市

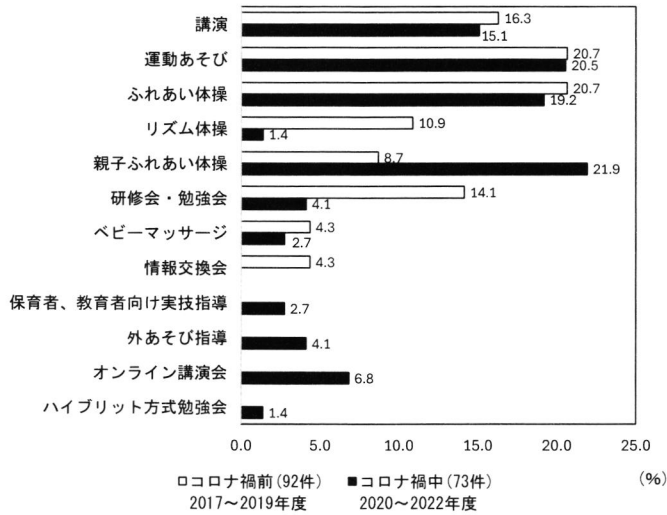


図1 COVID-19 前と COVID-19 禍中の活動割合

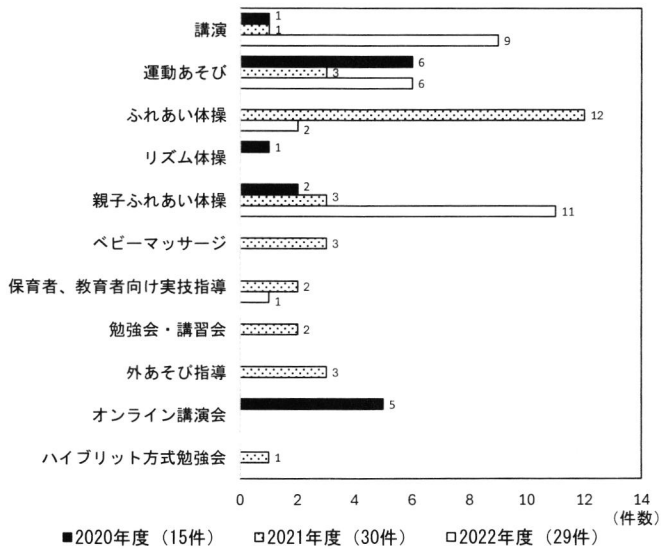


図2 COVID-19 禍中の活動件数

て、推奨する21時までの就寝や夜間の10時間以上の睡眠⁷⁾の必要性が知られておらず、保護者の睡眠や就寝時刻に関する意識改善を図る必要があることを痛感した。とくに、就寝時刻の遅いことが顕著であり、遅寝の習慣を改善するために、日中に身体活動量を高める取り組みが必要だと考えた。2014年の小石ら¹¹⁾の先行研究では、保育園幼児が、帰宅後に活動する時間が極めて短いことを報告しており、園内の生活時間に行う運動あそびが極めて重要だと言えよう。これらの先行研

究より見いだされた課題に対し、沖縄キャラバン活動では、保護者の意識改革を図るために講演会を、園内の生活時間に身体活動量を高めるために運動あそびやふれあい体操などを実践することを意識してきた。

COVID-19前の活動の特徴は、運動あそび、ふれあい体操、講演、情報交換会があり、対面活動で、大切なことをリアルタイムで伝えられる活動となっていた。対面活動以外のオンライン講習会やハイブリット勉強会は皆無であった。COVID-19

前もオンラインは存在していたが、キャラバンの中で活用する発想はなかった。一方、COVID-19 禍に入ってから、感染防止を心がけ、身体活動を休止することなく、飛沫感染と接触感染対策を講じた上で運動内容を工夫して臨み、身体接触を極力控える配慮をした。

2020 年度は、キャラバン開催当初から続いていた石垣島での実践活動を休止したが、石垣キャラバン自体の活動は続け、那覇市からオンライン講演を実施した。石垣島は離島のため、医療基盤が脆弱であり、島外からのキャラバンスタッフを招いての対面的な実践活動が困難な状況であったが、その状況においても、子どもの健康の健全育成のためにできることを継続していくことを試みた。感染症流行中においても、子ども支援活動を継続することの必要性がうかがえた。沖縄本島においては、例年より依頼件数は少なかったものの、運動あそびを中心とした活動依頼が多く、COVID-19 禍で運動不足となる子どもたちへの指導がより必要になっていると考察した。

2021 年度は、ふれあい体操が最も依頼が多く、活動を展開した。2 年続いた COVID-19 禍中で、人と人との関わりが減少している中、現場の先生たちは、運動やあそびを通して子どもたち同士がふれ合う機会を求めていたと考えられた。異年齢や他施設との交流を含めたふれあいではなく、いつも同空間で過ごしている、同じクラスの子どもたち同士のふれあいあそびの活動をすることで、感染を拡大することなく、子どもたち同士がふれ合うあそびを指導することができた。また、COVID-19 前にはみられなかった外あそび指導も 3 件あった。COVID-19 禍で、子どもたちの体力が低下していることを危惧し、感染防止しながらも、体力を維持させたいと願う現場の先生方の思いがあったと考えた。石垣島では、石垣キャラバン実行委員会が主催となりハイブリット講演を行い、参加型とオンライン視聴で、講義と実技を行った。COVID-19 禍中でもできることを考え、歩みを止めないことが沖縄県の子どもたちの健康福祉には必要だと再確認した。2020 年度と比較し、活動依頼が増加したこともあり、2021 年度は指導者不足の課題が残った。その 2021 年度の沖縄キャラバンの課題である指導員育成に取り組むため、COVID-19 流

行拡大の収束が見え始めてきた 2022 年 4 月からは、国内の指導者養成講習会やセミナーの開催を強化し、指導力向上に力を入れた。その結果、「食べて・動いて・良く寝よう！⁹⁾」の理論を大切にしながら運動実践する指導者が増え、その中で活躍している中心スタッフが 2022 年度の沖縄キャラバンに参加した。そのため、保護者には、講演で幼児期の生活習慣やリズムづくりの重要性の理論をはじめ、家庭でできる運動あそびや親子体操の紹介を、幼児に対しては園内での理論を大切にしながら運動実践する指導者ができ、指導の強化や共通理解を図ることができた。

2022 年度は、親子ふれあい体操が、COVID-19 前よりも COVID-19 禍以降の方が、希望件数が多かった。同世帯に居住する家族構成で実施する親子ふれあい体操は感染拡大を防ぎ、極めて運動効果の高い活動であることが示された。また、運動あそびや実技指導、サーキットあそびを取り入れて身体活動量の確保に努めた。2022 年度は講演の依頼希望も多く、COVID-19 禍で幼児や児童の運動不足が顕著であり、理論と実践を重視する幼児体育に今まで以上に期待が寄せられていると推察された。

COVID-19 前後の活動を通して、感染防止を考えて、大人が歩みを止めないで、幼児の身体活動量を確保する活動の重要性を痛感した。今後でもきうる活動提案をしていくことで、一人でも多くの大人に参加してもらえる活動にしていきたい。同時に、若年層の保護者が参加しやすいキャラバン活動も検討したい。

そして、沖縄県の子どもの健康づくりの土台となる休養（睡眠）・栄養（食）・運動（外あそび）が重要であることを、保護者や保育者、教師らに伝える仕掛けづくりをしたいと考えた。

ま と め

沖縄県教育庁生涯学習振興課の沖縄キャラバン実行委員会により、タイムスケジュールが作成され、12 月中旬から下旬にかけて、沖縄本島や石垣島で、講演、ふれあい体操、親子体操、リズム体操、体育指導、幼児体育指導者研修会、情報交換会、オンライン講義、ハイブリット勉強会などを実施した。

COVID-19 前の 92 件と、COVID-19 禍中の 73 件の活動内容を取り上げて比較し、それらの特徴をまとめ、課題を検討した。

その結果、

- (1) 沖縄キャラバンの活動は、これまでの調査から見いだされた、沖縄県の子どものたちの問題改善に合わせた実践活動が展開された。COVID-19 前は、保護者の意識改革を図るために講演会や育児相談会を、園内の生活時間に身体活動量を高めるために運動あそびやふれあい体操等、リアルタイムで伝える活動を行った。一方、COVID-19 禍中は Zoom を使用したオンライン講演会やハイブリット勉強会で接触を控えて行った。オンラインやハイブリット講演会は、コロナが収束しても、継続できる価値ある研修スタイルを確立できた。
- (2) 2021 年度沖縄キャラバンの課題であった、指導員育成に取り組むため、国内の指導者養成講習会やセミナーに講師として参加し、そこに参加していた幼児体育指導者と学びを深め、指導力向上に力を入れた。その結果、複数に分かれた活動でも、指導力の質を低下させることなく、質の高いプログラムを遂行することができた。
- (3) 親子体操は、コロナ禍前よりもコロナ禍以降の方が参加希望施設は多く、同世帯に居住する家族構成で実施する親子ふれあい体操は感染拡大を防ぎ、極めて運動効果の高い活動であることが示された。また、感染防止を心がけた親子ふれあい体操に、今後も多くの期待が寄せられることが確認できた。

以上より、感染症の流行があっても、感染防止を心がけ、子どもたちの身体活動量を低下させないように、大人は歩みを止めず、継続的に子どもの健全育成に取り組む必要がある。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、キャラバン活動にご尽力いただきました沖縄県教育庁生涯学習課や宮古島キャラバン関係者の皆さま、石垣キャラバン実行委員会の先生方に厚く御礼を申し上げます。また、園や学校関係者、施設の代表、教職員、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 前橋 明, 沖縄の子ども支援 2018 年度沖縄キャラバン報告, 幼児体育学研究 11 (2): 1-9, 2007.
- 2) 照屋真紀・前橋 明, 子ども支援の沖縄キャラバン活動の実践報告, 幼児体育学研究 8 (2): 57-74, 2016.
- 3) 前橋 明, 子どもの生活白書 2006 年度版, 日本食育学術会議, 大学教育出版, 2007.
- 4) 松尾瑞穂・前橋 明, 沖縄県における離島幼児の健康福祉に関する研究 (1) —石垣島の幼児の生活実態とその課題—, 食育学研究 2 (1): 32-42, 2007.
- 5) 黒島さくら・前橋 明, 沖縄県における夕食開始時刻別にみた幼児の生活実態, 子どもの生活リズム向上作戦, 明研図書, 岡山県: 116-140, 2012.
- 6) 佐野祥平, 石垣島の幼児の生活習慣の実態からみた健康管理上の課題, 子どもの健康福祉研究 19: 156-164, 2014.
- 7) 照屋真紀・泉 秀生・前橋 明, 沖縄県幼児の生活習慣と保護者の健康意識の問題, 保育と保健 23 (1): 88-93, 2017.
- 8) 新型コロナウイルス感染症対策本部 (内閣府) [https://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/th_siryoku/kihon_h \(4.7\).pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/th_siryoku/kihon_h (4.7).pdf) (閲覧日: 2024 年 6 月 15 日).
- 9) 前橋 明, 幼児の生活習慣分析に基づいた生活リズム向上戦略の展開 (3) 2011 年冬季沖縄キャラバンの実際, 幼少児健康教育研究 18 (1): 37-58, 2011.
- 10) 照屋真紀・前橋 明, 沖縄県幼児の生活リズムの問題とその対策—地区別にみた幼児の生活習慣の実態と余暇時間の費やし方の特徴と課題—, 幼児体育学研究 8 (2): 41-46, 2016.
- 11) 小石浩一・泉 秀生・前橋 明, 保育園幼児における午後の運動あそびと就寝時刻との関連性, 子どもの健康福祉研究 23: 1-9, 2015.

(受付: 2024 年 8 月 16 日)
(受理: 2024 年 10 月 17 日)